

教育システムはいつの時代にも、そのときの社会的状況を何らかの意味で反映するものですが、中等教育は特にその起源においても歴史的にも、様々な諸勢力からの圧力を受けてきました。教育者、学習者の立場からは、是非とも、中等教育の「本来の」教育的価値にもとづいてその目的やカリキュラムを構成すべきだと捉えたいものです。しかしながら、それとは裏腹に、中等教育は、例えば、教養なのか専門（プロフェッショナル）なのか、進学準備なのか職業準備なのか、共通教養なのか専門教養なのかといった二元論的なコンフリクトの中に置かれてきました。とりわけ最近では、どのような成果を実現すべきかという点をめぐって、（やはり外部からの要請として）「新しい学力」観やPISA型の学力、「心の教育」やケアリングなどが話題となってきました。また教育や福祉の領域における市場化の問題はもちろん、経済的なグローバリゼーション、フラット化する地球、様々な意味での格差化などの問題も無縁どころか、中等教育の制度全体に押し寄せています。

中等教育研究センターのミッションの中に、中等教育と高等教育の接続（articulation）に関する学術的研究や中等教育レベルにおけるカリキュラム開発や学力形成・評価問題の分析と研究がありますが、まさにこうした問題を包括的に捉える一方、微に入り細を穿つ方法で早急に伝えていかなくてはなりません。センター紀要も今回で8号となりました。本号の掲載論文は、すべて個別研究となりましたが、いずれも現代社会と教育に特徴的な問題を反映したものとなっています。今後は、最重要課題については、テーマを設定し、特集を組んでいくことも検討します。本紀要がわが国の中等教育に関する先端的な研究の基盤となるように努めてまいります。（編集委員、H）

中等教育研究センター紀要 第8号

2008年3月25日 印刷

2008年3月30日 発行

編集者・発行者 名古屋大学大学院教育発達科学研究科
附属 中等教育研究センター
代表者 松下 晴彦
名古屋市千種区不老町 〒464-8601
名古屋大学教育学部附属中・高等学校内
TEL&FAX：052-789-4214
E-mail:n47132a@cc.nagoya-u.ac.jp
印刷所 名古屋大学消費生活協同組合印刷部
名古屋市千種区不老町 〒464-0814
